

## 4. 重点施策

### 4.4.5 九十九島の藻場造成

取組目標：藻場造成の取り組みより創出したクレジットの維持と販売の継続

#### (1) 背景と目的

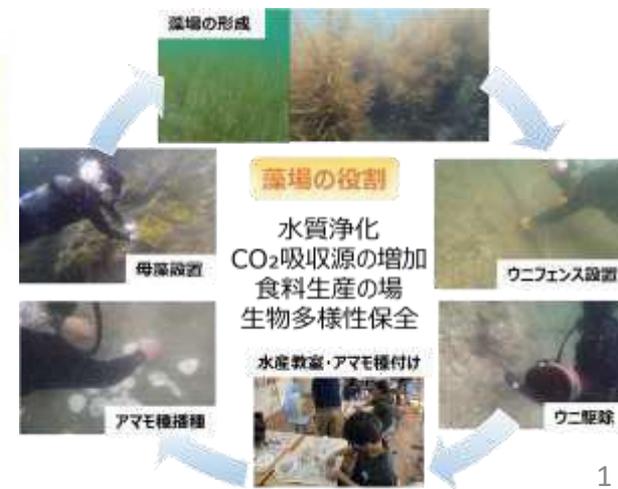
佐世保市は、全国2位（2016(平成28)年）の漁獲量を誇る水産都市です。しかし、平成12年頃から佐世保市の沿岸海域では、海藻が著しく減少する「磯焼け」と呼ばれる現象が顕著化し、漁獲量の低下が懸念されるようになりました。磯焼けは、地球温暖化や栄養塩不足、ウニなどの藻食生物による食害等、様々な要因が複雑に絡み合っていると考えられています。

豊かな漁場環境を回復し、水産業の振興を図るため、2003（平成15）年頃から九十九島漁協が中心となり、藻場保全活動が実施されています。208 個の島々からなる九十九島の穏やかな海域は、磯焼けによる被害が特に深刻化しており、佐世保市は九十九島漁協と連携し、ウニ駆除に特化した藻場造成事業を推進しています。

具体的には、潜水土によるウニの除去や、海藻の生育を促すための母藻（ホンダワラ類）の設置、食害生物から海藻を守るためのウニフェンスの設置等を実施しています。

また、市水産センターと連携し、海藻の提供を受けるなど、より効果的な事業を実施しています。さらに、小学校と連携した水産教室を開催し、アマモの種付け体験や観察を通して、子どもたちの藻場保全の取組みに対する理解と環境保全意識の向上を図っています。

これらの活動により、藻場を回復することによって、CO2の吸収源増加による地球温暖化抑制、生物多様性の向上、漁獲量の回復といった効果が期待されています。実際に、造成された藻場6地点を申請した結果、約3ヘクタールの藻場が造成されていることが確認され、J-ブルークレジット10.5tの認証を取得しました。



# ～みんなで作る佐世保九十九島の藻場造成～



九十九島の海の魅力を継いで...

JF九十九島

地元小学校



佐世保市  
SASEBO CITY



## プロジェクト概要



- ・平成12年頃 佐世保市の磯焼けが顕著に  
※佐世保が位置する長崎県は、全国2位の漁獲量（当時）を誇る、水産都市。磯焼けによる漁獲量の低下を懸念。

- ・平成15年頃～ 九十九島漁協が中心となり藻場保全活動を実施



## プロジェクトのポイント・効果



- ポイント👉：208個の島々からなる九十九島の穏やかな海でより被害のあるウニ駆除に特化して実施
- ポイント👉：市水産センターなどと連携し、海藻の提供などを受けながら、より効果的な事業を実施
- 効果👉：毎年の活動により藻場の面積が拡大※モニタリングデータによる  
(例)令和3年度：藻場面積3.6ha → 2.77ha ↑  
令和4年度：藻場面積6.37ha
- 効果👉：CO<sub>2</sub>吸収源増加⇒地球温暖化抑制に寄与  
藻場の増加⇒生物の多様性が高まり、漁獲量回復



## 活動内容

- 食害生物（ウニ）の除去
- ウニフェンスの設置
- 母藻の設置（ホンダワラ類）
- アマモ種の播種
- 水産教室による地域理解の増進

藻場の形成



母藻設置



アマモ種播種



## 藻場の役割

水質浄化  
CO<sub>2</sub>吸収源の増加  
食料生産の場  
生物多様性保全

ウニフェンス設置



ウニ駆除

水産教室・アマモ種付け

